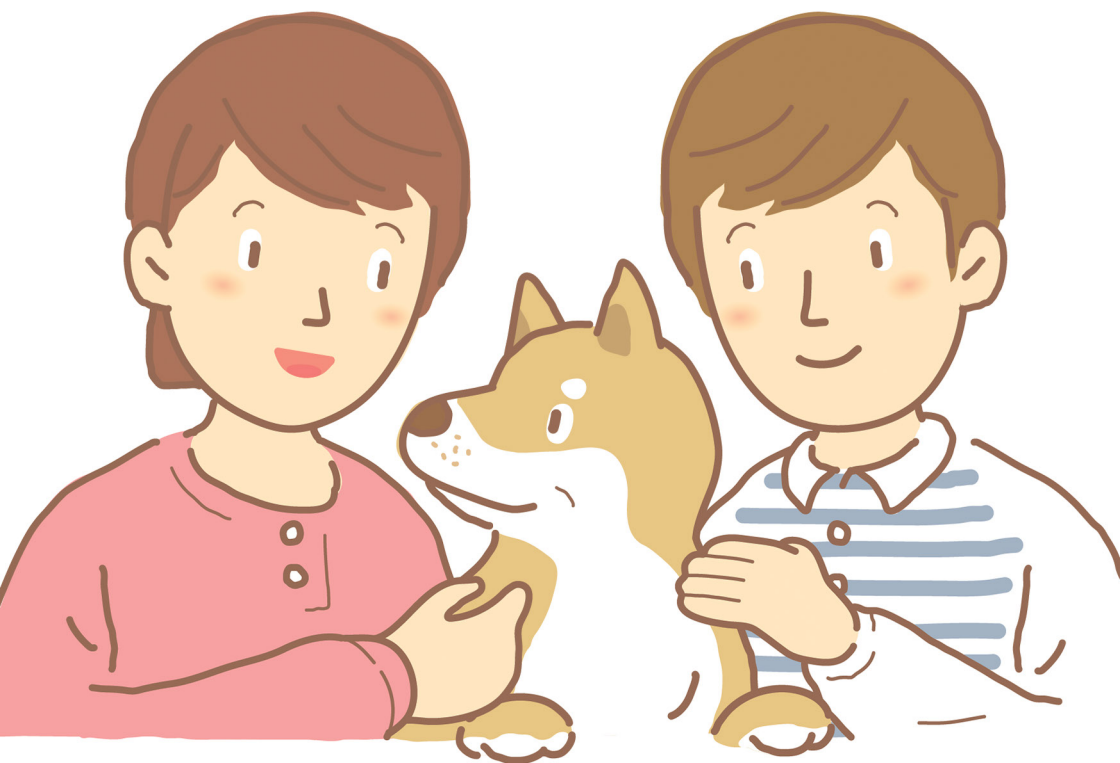


シニア犬の病気と予防のことがわかる

愛犬が7歳に なったら読む本



監修

みどり動物病院 院長 森島隆司 先生

人間よりずっと早いワンちゃん の加齢

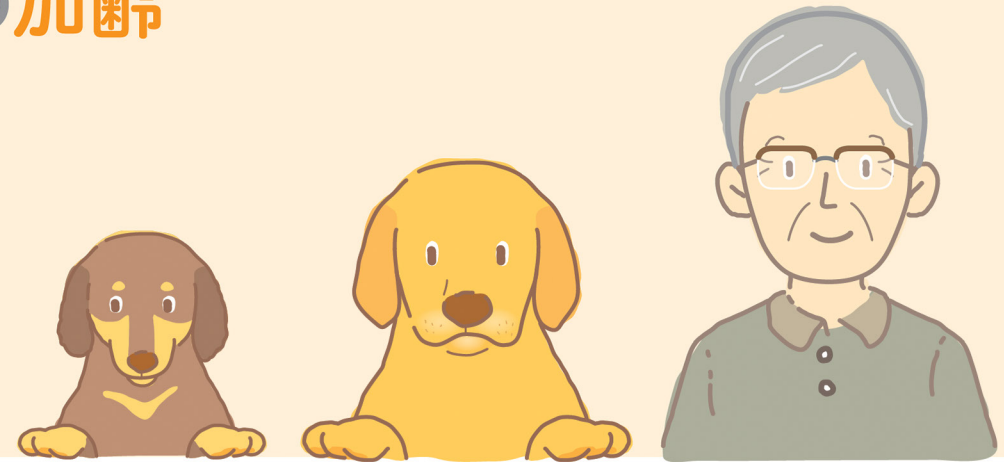
人も壮年期の中ほどにさしかかると体の無理がきかなくなりますね。

子供の運動会で張り切ってしまった疲れが2日後に現れたり、横断歩道の青信号を短く感じたり、立ち上がる時思わず「ヨイショ」と言ってしまうたり・・・。

まだまだ若いと思っていたのに、身体能力が低下していることに、「はっ」と気づくことがありますよね。愛犬たちも同じです。

ただし、老化だと思っていた仕草が実は病気のサインである場合もあります。

飼主さんだけが感じとることができる愛犬の身体の変化に、早く気づいてあげることが中年齢以降のワンちゃんにとって重要です。



犬の平均寿命

13.94歳

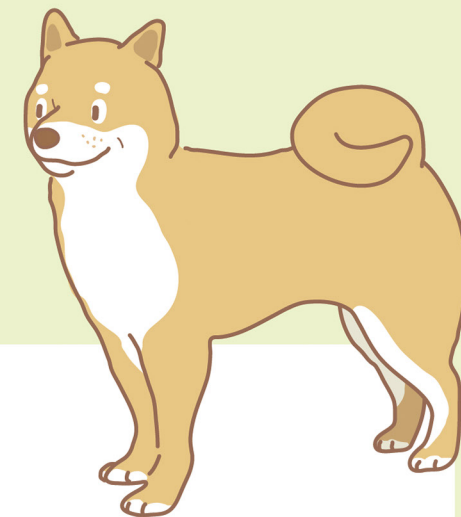
ペットフード協会：平成24年全国犬猫飼育実態調査より

獣医療のめざましい発展や、良質のドッグフードの普及、飼育環境の変化により、犬の平均寿命は徐々に延びています。

その結果、犬の一生に占めるシニア期が長くなりました。

7歳頃から小さな変化を見逃さず対応する姿勢が、これからの健康管理には欠かせません。

シニア犬が かかりやすい病気



がん（悪性腫瘍） P. ⑥



歯周病 P. ⑦



関節の病気（変形性関節症） P. ⑧



心臓の病気（僧帽弁閉鎖不全症） P. ⑨

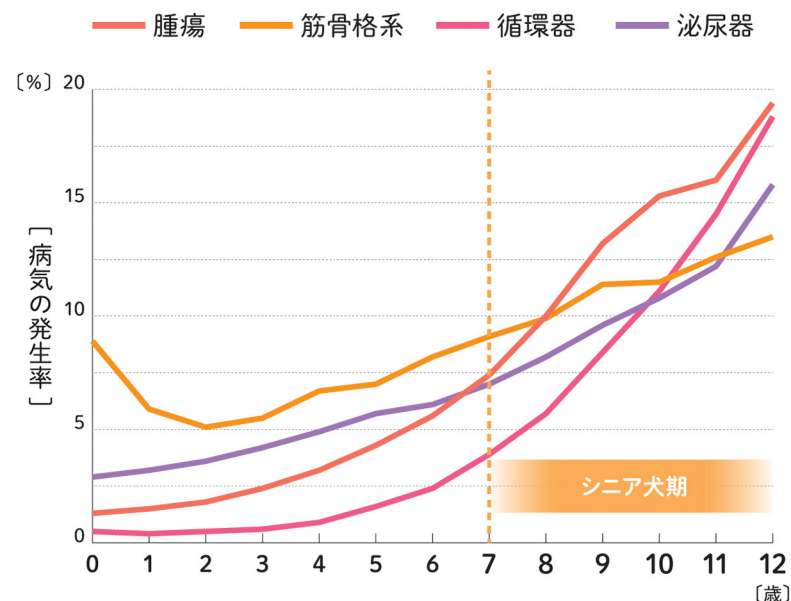


泌尿器の病気（腎不全・膀胱炎） P. ⑩

シニア犬がかかりやすい病気について

- 壮年期も後半になると、内臓の機能が低下したり、免疫力が下がるため病気にかかりやすくなります。
- 治療が長期にわたる病気が多くあります。
- お薬は、獣医師の指示の下、決められた量・時間・回数を守って与えましょう。
- お薬が与えづらい場合は、お気軽に獣医師にご相談ください。犬が好む味がついたお薬や、効果が持続する注射薬など、いろいろと工夫されたお薬が適用できる場合があります。

犬の年齢と病気の発生率



出典：アニコムホールディングス、家庭どうぶつ白書2013（一部改変）

歯周病も、年齢とともにかかりやすくなる病気です。
3歳以上の犬のおよそ **80%** は歯周病とされています。



がん(悪性腫瘍)

どんな病気?

遺伝子が増齢や紫外線、化学物質などによって傷つき、細胞が無秩序に増殖したものを腫瘍(しゅよう)といいます。中でも周囲の組織を破壊したり肺やリンパ節などに転移する性質の強い腫瘍を“がん(悪性腫瘍)”と呼んでいます。症状、治療法、病気の進行は、がんの種類やワンちゃんの状態によって異なります。どんながんでも、治療が手遅れにならないよう早期発見が極めて重要です。家庭で発見しやすいのは、皮膚、乳腺、口や肛門周囲など、身体の表面に見られるがんです。

日頃から愛犬と触れあうようにして、しこりや長期に続く皮膚のただれがないかをチェックする習慣をつけましょう。

✓チェックポイント

- ☒ 皮膚、乳腺、口の中などにしこりがある
- ☒ 傷や皮膚のただれが長い間治らない
- ☒ 血が、よだれや便、尿に混ざる
- ☒ 鼻血が出やすい



❗ しこりに気づいたら、獣医師に相談しましょう。

悪性腫瘍でも、しこりが小さいうちに取り除けば完治が期待できるケースが多くあります。“しこりが小さいから大丈夫”と放置せずに、早期の検査を受けましょう。



歯周病



● 歯周病が進行した状態

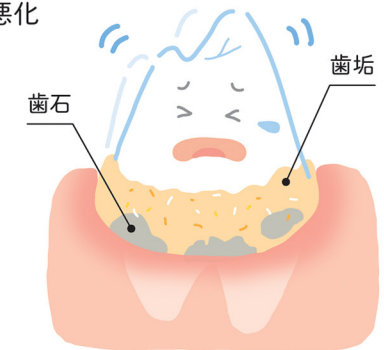
どんな病気?

歯に付着した食べかすに菌が増殖し歯垢が付着すると、歯肉に炎症が起こります。進行すると、歯と歯茎の間に歯垢が入り込み、歯周ポケットが広がります。さらには、歯を支えている顎の骨が溶け、歯がぐらつき、抜けてしまったり、わずかな負担でも顎が骨折を起こしやすくなったりします。

歯周病が腎臓や心臓の病気を引き起こしたり悪化

させる可能性があることも指摘されています。

歯周病の予防と治療は、愛犬のクオリティ・オブ・ライフ(生活の質)に欠かせません。



✓チェックポイント

- ☒ 歯に歯垢や歯石が付着し、口臭がする
- ☒ よだれが多くなった、血が、よだれに混ざっている
- ☒ 歯茎から膿が出ている
- ☒ フードが食べにくそうだったり、口からこぼれ落ちることがある
- ☒ 歯がぐらぐらしている
- ☒ 歯が抜けた
- ☒ 口に触られるのを嫌がるなど、痛がるそぶりを見せる
- ☒ 眼の下など顔の皮膚から膿が出ている



関節の病気(変形性関節症)

どんな病気？

シニア犬では、体重のかかりやすい関節に変形性関節症が生じやすくなります。変形性関節症は、関節を覆う軟骨がすり減ってうまくはたらかなくなり、関節に炎症が起こった状態です。変形性関節症では痛みの適切な管理と生活の見直しが重要になります。

関節の痛みを和らげるため、鎮痛薬が処方されることがあります。鎮痛薬は、症状の緩和がみられても、自己判断で中断せず、獣医師の指示通り確実に投与してください。また、患部に負担をかけないようにするため、必要に応じてダイエットをしたり、床を滑りにくくする工夫など、生活の見直しが重要です。健康な関節を維持し変形性関節症の進行を防ぐため、軟骨成分を含んだサプリメントが推奨されることもあります。

✓チェックポイント

- ☒ 歩行時に足を引きずっている
- ☒ 散歩や階段の上り下りなどを嫌がるようになった
- ☒ 立ち上がりにくそうにしている
- ☒ 寝ている時間が多くなった
- ☒ 遊びたがらなくなった



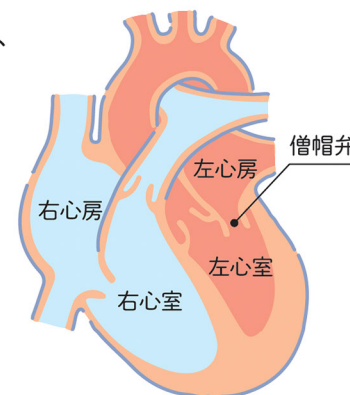
心臓の病気(僧帽弁閉鎖不全症)

どんな病気？

シニア犬では、僧帽弁(そうぼうべん)閉鎖不全症などの心臓の病気が増えてくる傾向があります。僧帽弁閉鎖不全症は、心臓の左心房と左心室をつなぐ弁(僧帽弁)が変形してきちんと閉じなくなり、血液が逆流する結果、心不全にいたる病気です。

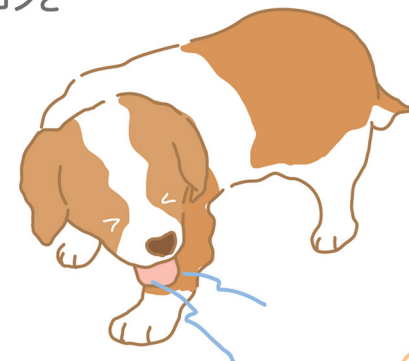
進行すると心臓が肥大し、気管支が圧迫されたり、肺のうっ血をきたします。

症状の緩和がみられても、お薬は獣医師の指示通りに確実に投与することが重要です。



✓チェックポイント

- ☒ 少し動いただけで苦しそうにハアハアしている
- ☒ 運動を嫌がるようになった
- ☒ 興奮時や運動時、明け方に、コンコンと響くような軽い咳をする
- ☒ 運動時などに、ゼーゼーと苦しげな激しい咳をする
- ☒ 舌の粘膜の色が青っぽく見える





泌尿器の病気(腎不全・膀胱炎)

腎不全

どんな病気？

腎臓は、血液をろ過して老廃物を排泄する尿をつくる臓器です。尿をつくる他には、骨の代謝、体液の平衡状態の保持、赤血球をつくりだすホルモンを産生するなど、重要な役割を果たしています。

腎不全が進行すると、老廃物の排泄がうまくできないので身体に尿素が溜まったり(尿毒症)、赤血球が減少して貧血が現れることがあります。

✓ チェックポイント

- ☒ よく水を飲み、尿の量が増えてきた
- ☒ 突然、尿の量が減り、色が濃くなった
- ☒ 吐く息が臭い



膀胱炎

どんな病気？

犬に多い膀胱炎は、細菌が尿道から膀胱に達し、増殖して炎症が起きたものです。

細菌の増殖を抑える抗菌剤が処方されます。確実に投与しないと細菌の増殖が抑えられなかったり耐性菌が増えてしまう恐れがあるため、獣医師の指示通り確実に投与しましょう。

✓ チェックポイント

- ☒ 血が尿に混ざる
- ☒ 排尿時に痛がる様子を示す



7歳を過ぎたら健康診断を受けましょう



- 愛犬の病気に早く気づいてあげるためには、健康診断を受けるのが最善の方法です。
- 通常、健康診断では、一般身体検査に血液検査などを組み合わせて、おこないます。

一般身体検査

- 視診(外観の観察)
- 聴診(心臓や肺の音を聴く)
- 触診(手で触れて異常がないか調べる) など

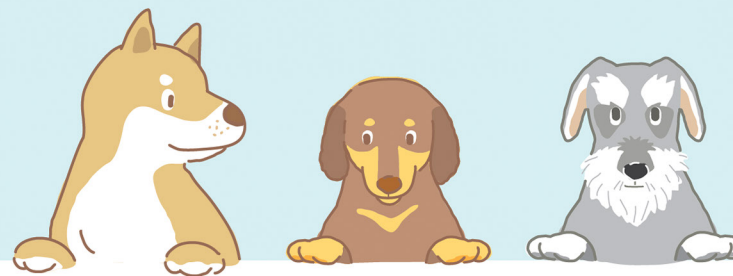
血液検査

- 腎臓や肝臓の状態
- 赤血球や白血球の量や種類
- ホルモンや電解質の濃度 など

画像診断

- レントゲンや超音波検査によって、臓器の異常や異物、がん等がないかを調べる

シニア犬の ワクチン接種について



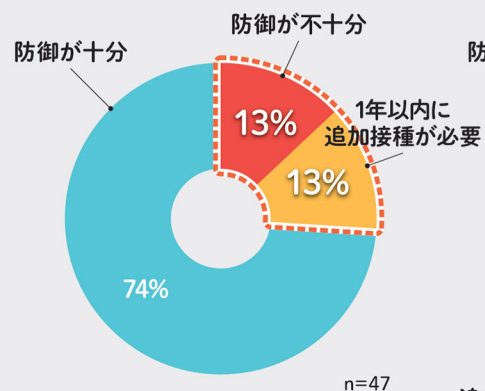
ワクチン接種は、 シニア犬の健康維持に重要です

一般的に、年をとると免疫力が低下します。「今までワクチン接種をしなくても元気だったので、これからもワクチン接種は必要ない」とはいえません。

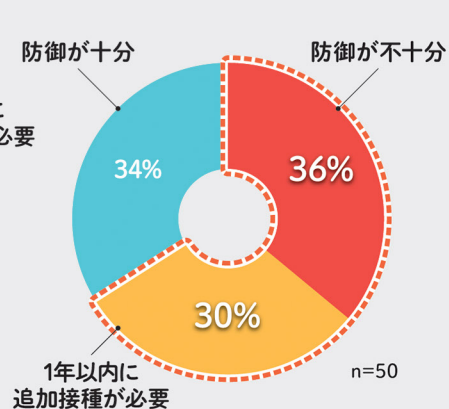
特に高齢犬になるほど、病気から身体を守る免疫力(抗体価)が上がりにくい傾向があると、報告されています※1。

犬ジステンパーウイルスに対する免疫力(抗体価)※1

ワクチン接種をしている
子犬～成犬※2



ワクチン接種をしている
シニア犬※3



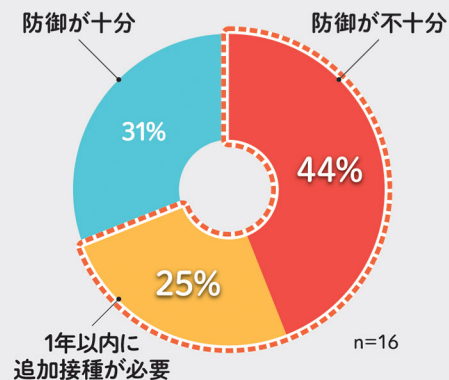
獣医師と相談し、 定期的なワクチン接種を心がけましょう

ワクチンの接種間隔が長くなるほど、病気から身体を守る免疫力は低下します。獣医師は愛犬を感染症から守るために、その子に適切なワクチンの種類や接種する時期を提案します。

愛犬の年齢、病歴、環境について獣医師とよく相談し、適切なワクチンを選択しましょう。

犬ジステンパーウイルスに対する免疫力(抗体価)※1

1年以上ワクチン接種をしていない犬



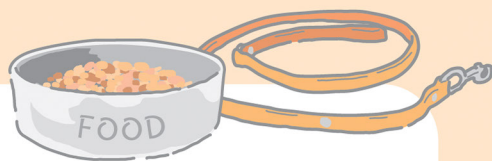
体調が悪いなどの理由で、ワクチンが接種できないことがあります。

※1:「野外調査におけるワクチン抗体価を通じての一考察」(2012)森島隆司、岸本智子(みどり動物病院)、相馬武久(マルピー ライフテック株式会社)

※2: 0～8歳

※3: 9歳以上

食事と運動



食事の見直し

7歳頃から筋肉量が減って基礎代謝が下がるため、太りやすくなります。一方、必要な栄養素は十分に摂取する必要があります。シニア期の栄養バランスや摂取エネルギーに配慮したドッグフードに変更するなど、食事の見直しをはかりましょう。病気や具合の悪いワンちゃんの場合は、“食事療法食”という特別なフードが勧められることがありますので、獣医師にご相談ください。

お散歩は、 ゆったり、のんびり、楽しんで

お散歩でもたらされる適度な運動は、足腰を強化したり、肥満を防いだり、外部の刺激に触れることで脳が活性化されるなど、良いことづくし。加齢によって今までよりゆっくりめのペースで歩くことも増えてくるかもしれません。ゆったり、のんびり、楽しみながら、愛犬と幸せなお散歩の時間を過ごしてください。

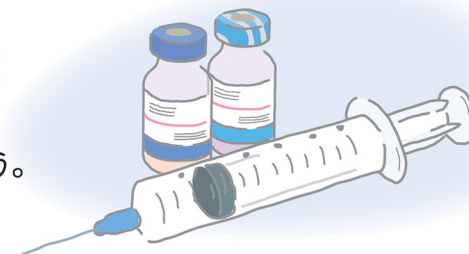


シニア犬との ハッピーライフのために



加齢とともにかかりやすくなる病気について、本誌の6～10ページのチェックポイントを参考に、異常がみられたら早期に獣医師の診察を受けましょう。

ワクチンや犬フィラリア症
予防薬などにより、
病気を未然に防ぎましょう。



食事を見直したり
サプリメントを取り入れて、
健康寿命を延ばしましょう。

健康診断を活用し、
病気の早期発見に努めましょう。





みどり動物病院 院長
森島隆司 先生

縁

があって家族に迎え入れた子犬が成長し、色々なことを理解するようになると本当にうれしいですね。夜、帰宅し、玄関で尻尾を振って待っている姿を見ると疲れが飛んでいってしまうような感じになるのは私だけではないと思います。元気な愛犬との幸せな生活がずっと続くようにと誰もが願いますよね。でも、犬達は私達より数倍早く一生を駆け抜けていきます。私達人間でも、まだまだ若いと思っても身体能力が知らないうちに少しずつ低下していると気づく時がありますよね。物言わぬ愛犬のほんのわずかな仕草から、体の衰えを感じ取り気遣いを始めたほうがよい年齢が7歳位からと言われています。愛犬の動きが少し重いなあと気づいてあげられるのは飼主さんだけです。愛犬との楽しい時間を少しでも長く過ごせるように彼らの身体の変化を気づいてあげてください。

お問い合わせは当院まで



壱岐動物病院

〒811-5117

長崎県壱岐市郷ノ浦町田中触 9 8 9 - 1

TEL 0920-47-6767

<https://1013.jp>



ゾエティス・ジャパン株式会社

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7